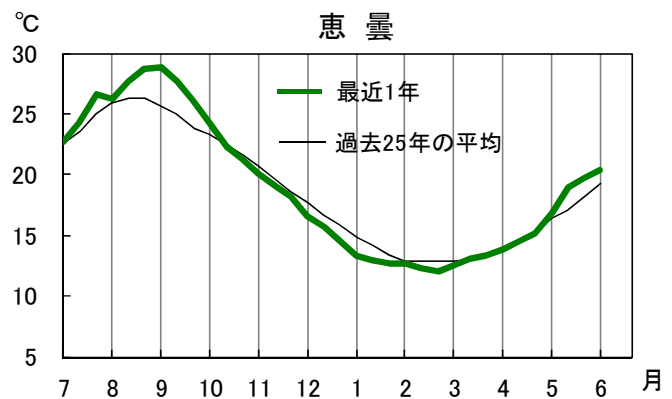
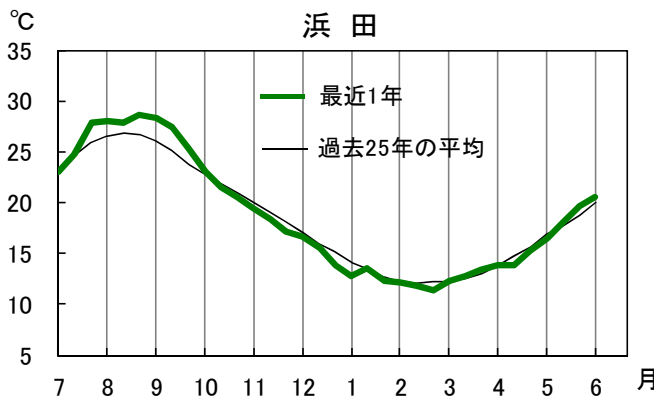




《5～6月の海況》

5月	月平均	平年差	評価
浜田	18.1℃	+0.2℃	平年並み
恵曇	18.7℃	+1.3℃	かなり高め

沿岸定地水温は、浜田地区では5月は上旬～中旬が「平年並み」でしたが、下旬以降は「やや高め」となり、6月上旬時点で同様に経過しています。恵曇地区では5月は上旬が「やや高め」、中旬が「はなはだ高め」、下旬が「かなり高め」となり、6月上旬時点で同様に経過しています。



《5月の漁況》

【中型まき網漁業】

県西部（浜田地区）ではマアジ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は平年を大きく下回りました。この時期主体となるマアジは平年の6割、サバ類は1割を切る漁獲となりました。県東部（西郷地区及び浦郷地区）ではマアジ、マイワシ、ウルメイワシ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は平年を下回りました。この時期主体となるマアジ、マイワシ、ウルメイワシはそれぞれ平年の8割、5割、6割の漁獲となりました。

【イカ釣漁業】

浜田地区（属人5トン以上）ではスルメイカ主体（全体の92%）の漁況で、1隻1航海あたりの漁獲量は182kgで平年並みでした。ケンサキイカ（全体の8%）は、5月下旬頃から漁獲され始め、今後の漁獲が期待されます。一方、西郷地区（属人5トン以上）ではスルメイカのみ（全体の100%）の漁況で、1隻1航海あたりの漁獲量は79kgで平年を下回りました。

【沖合底びき網漁業】

浜田港ではスルメイカ、ムシガレイ、キダイ主体の漁況でした。1統1航海当たり漁獲量は10.0トンで、平年を14%下回る水揚げとなりました。この時期水揚げが増加するムシガレイ、ケンサキイカ、アナゴ類が低調に推移し、平年の4～7割の水揚げに留まりました。一方、キダイは平年の2倍、スルメイカは平年の1.4倍の水揚げがあり、好調に推移しました。

【小型底びき網漁業】

久手・和江両地区ともソウハチ主体の漁況で、1隻1航海あたりの漁獲量は、和江地区は平年を上回りましたが、久手地区では平年並みとなりました。両地区ともソウハチ、アンコウが平年の1.2～1.7倍の水揚げとなりました。一方、ニギスは低調で平年の6～7割の水揚げに留まりました。

【定置網漁業】

石見地区ではブリ、マアジ、ケンサキイカ主体の漁況で、1統当りの漁獲量は23.9トンとなり、主要魚種が好調であったことから全統の総漁獲量は平年を上回りました。出雲地区ではマアジ、ブリ主体の漁況で、1統当りの漁獲量は30.9トンでした。ブリが平年の7割だったものの、マアジが1.5倍、他の魚種も好調であったため、全統の総漁獲量は平年を上回りました。隠岐地区ではブリ、マアジ主体の漁況で、1統当りの漁獲量は52.2トンとなり、主要魚種が好調であったことから全統の総漁獲量は平年を上回りました。

【釣・縄】

石見地区ではブリ、ヒラマサ、カサゴ・メバル類が主に漁獲され、1隻1航海あたりの総漁獲量は18kgで平年並みでした。出雲地区ではブリが主に漁獲され、1隻1航海あたりの総漁獲量は27kgで平年を下回りました。隠岐地区ではカサゴ・メバル類、キダイが主に漁獲され、1隻1航海あたりの総漁獲量は16kgで平年を下回りました。

【平成 25 年 5 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1 隻(統)1航海あたり漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
中型まき網	浜田	マアジ	149 トン	69%	39%	6.8 トン	69%	50%	▲
	西郷	マイワシ、マアジ	3,400 トン	82%	57%	72 トン	88%	62%	▲
	浦郷	マアジ、マイワシ、ウルメイワシ	1,263 トン	47%	49%	54 トン	44%	44%	▲
イカ釣り (5トン以上)	浜田	スルメイカ	5 トン	—	10%	182kg	—	97%	○
	西郷	スルメイカ	0.4 トン	5%	2%	79kg	116%	86%	▲
沖合 底びき網	浜田	スルメイカ、ムシガレイ、キダイ	270 トン	145%	84%	10 トン	107%	86%	▲
小型 底びき網	久手	ソウハチ	134 トン	67%	72%	806kg	105%	103%	○
	和江	ソウハチ	384 トン	101%	123%	968kg	104%	112%	◎
定置網 (大型)	浜田	マアジ、ケンサキイカ	25 トン	—	182%	1,059kg	—	266%	◎
	美保関	マアジ、ホソビウオ	83 トン	83%	78%	829kg	84%	87%	▲
	浦郷	ブリ、マアジ	60 トン	120%	170%	2,293kg	125%	169%	◎
釣り・縄	仁摩	メダイ、ブリ、カサゴ・メバル類、マアジ	6 トン	55%	61%	20kg	88%	75%	▲
	大社	ブリ	33 トン	112%	92%	48kg	107%	99%	○
	西郷	カサゴ・メバル類、キダイ	4 トン	65%	46%	22kg	104%	74%	▲

平年比：過去 5 年（沖底のみ 10 年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

本年の漁獲量が 0Kg(ほぼ 0Kg)のものは全てを－、前年の漁獲量が 0Kg(ほぼ 0Kg)のものは前年比を－、平年の漁獲量が 0Kg(ほぼ 0Kg)のものは平年比を－とした

【ケンサキイカ情報】

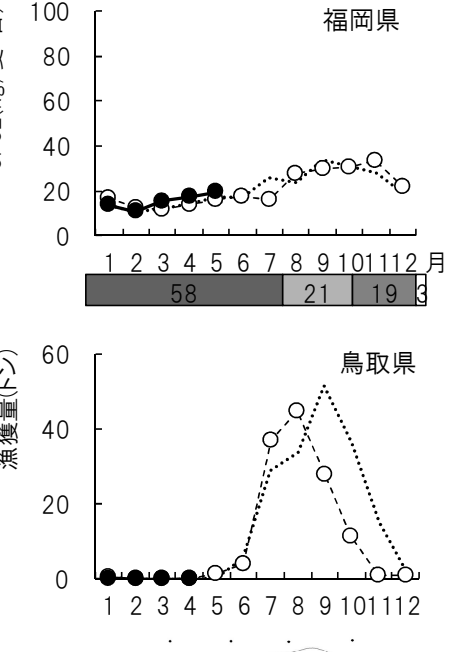
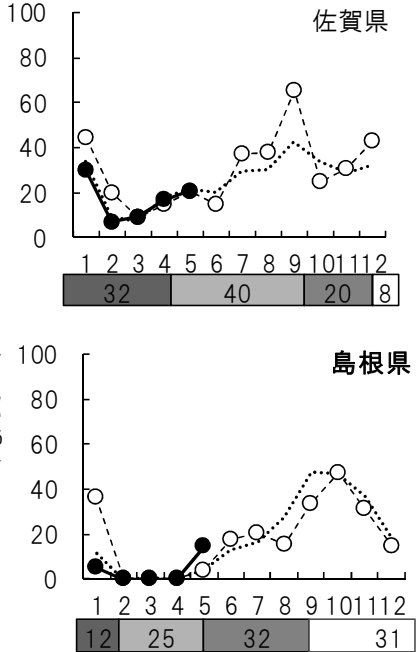
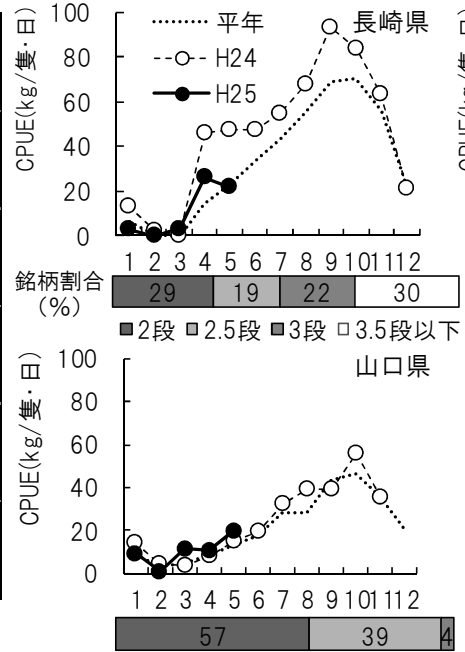
発行日：平成25年6月21日

長崎県、佐賀県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県の6県で共同発行しているケンサキイカ(地方名：マイカ、シロイカ)の情報(各地の漁況と底層水温)です。

I：5月のイカ釣り漁況

これらの情報は各県の主要漁港データを利用しています。折れ線グラフは漁獲量もしくはCPUE、棒グラフは銘柄割合を示しています。

鳥取県	5月分の漁獲量については集計中です。6月に入り、ケンサキイカ漁に向かう沿岸漁船がはじまりました。
島根県	主要7港の水揚量は3.2トンで、前年・平年を上回りました(前年比3962%、平年比754%)。
山口県	県北西部沿岸域では前年・平年を大きく上回りました、北東部沿岸域では前年・平年をやや下回りました。
福岡県	代表港の漁獲量は前年比124%、平年比129%で、前年・平年を上回りました。
佐賀県	代表港の漁獲量は前年比82%、平年比85%で、前年・平年を下回りました。
長崎県	標本漁協の漁獲量は、前年比54%、平年比85%で、前年を下回り、平年並みでした。



※平年は過去5年(H20～H24)の平均値

II：6月上旬の底層水温

鳥取県	水深100m以浅の海域の底層水温は16℃前後で、先月より約3℃上昇しました。
島根県	陸棚上の底層水温は、温泉津沖は2～16℃で平年並み～やや高め、浜田沖は9～16℃で平年並み～やや高め、高山沖は1～17℃でやや低め～かなり高めでした。
山口県	底層水温は5～18℃で10℃以下の冷水域を除き、平年並み～やや高めでした。
福岡県	沿岸域は、18～19℃台とやや高め～かなり高め、沖合域は、15～17℃台と平年並み～やや高めとなっています。
佐賀県	対馬東水道の底層水温は15.4～17.1℃、壱岐水道の底層水温は18.4～19.7℃でした。
長崎県	五島西沖の底層水温は、15～18℃台でした。

